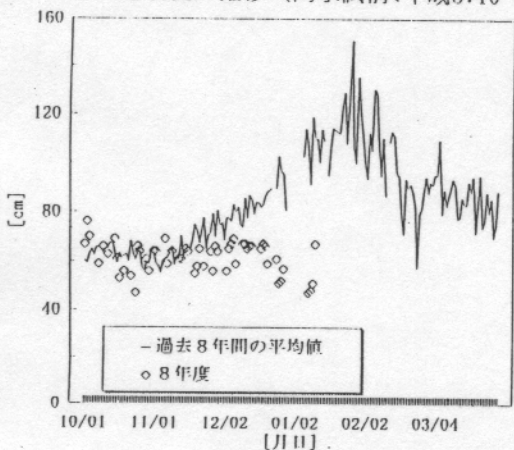


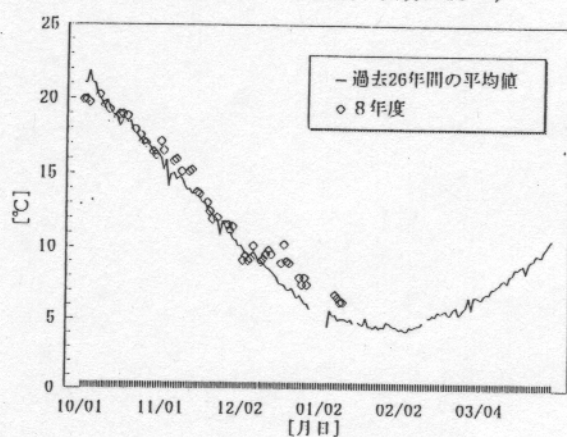
プランクトン(青幸良) —— 昨年秋からの状態を持続

プランクトンの種類および量は霞ヶ浦・北浦ともに前年秋以降現在に至るまで大きな変化は見られていません。透明度も霞ヶ浦では50~60cm(第1図)、北浦では80~90cmで前年秋からあまり変わらない状態で推移しており、特に霞ヶ浦においては植物プランクトンの活発な繁殖が持続されています。この原因は(第2図)に示すように秋以降の水温が例年よりもやや高めに推移しているためと思われます。この間の主なプランクトンの種類は珪藻のシクロテラ、シネドラでこれに続いて糸状藍藻類のオシラトリア、フォルミディウムとなっています。フォルミディウムの量は先秋9月下旬以降から1月9日現在まで、霞ヶ浦で3,000~4,000コ/ml、北浦で1,000~3,000コ/mlで例年よりやや高めで推移しており、このことも昨年に比べて高水温であることが原因と考えられます。本プランクトンの今後の動向については、過去の記録で水温が6℃以下では大繁殖がみられていないことから、今後順調に水温が低下していけば、しばらくの間は大繁殖はないものとみられますが、この後も暖冬が続いた場合や特に水温が上昇し始める春先には増殖する恐れが大きいのので注意が必要となるでしょう。

(第1図) 透明度の推移(内水試前,平成8.10~)



(第2図) 水温の推移(内水試前,平成8.10~)



平成9年1月9日現在の主なプランクトンの現存量(コ/ml)

プランクトンの種類 地点	藍藻類		珪藻類			原生動物	水温 (°C)	DO (ppm)	pH	透明度 (cm)
	フォルミディウム	オシラトリア	シネドラ	シクロテラ	メロシラ					
下玉里	4,420	4,160	12,870	93,953	650	2,600	6.3	16.7	9.1	50
霞ヶ浦 内水試前	4,030	8,709	11,700	62,699	520	2,470	7.5	15.1	9.0	50
牛渡	3,640	5,330	12,999	18,719	780	3,510	7.4	12.9	8.5	62
浦 手賀	5,590	5,590	11,829	13,679	390	4,810	7.6	14.3	8.8	55
五町田	2,470	3,380	12,609	17,939	910	2,470	7.9	13.4	8.6	63
北 阿玉	1,820	130	2,990	4,290	650	5,720	8.1	11.2	8.7	90
浦 江川	1,040	1,300	6,500	16,388	260	1,430	8.9	12.9	8.6	80

(第3図) 前年1月以降におけるフォルミディウム発生量の推移

